

IT の活用により効率的な多品種少量生産対応を実現している企業

東京都墨田区の梶フェルト工業株式会社(従業員27名、資本金1,080万円)は、フェルト製品を加工・製造する企業である。

同社は、3千を超える多品種の加工への対応が強みであり、売上は増加傾向にある。価格競争になりやすく、受注の安定にもつながるため、特に小ロット対応に力を入れている。

同社では受注・生産・在庫の情報管理を一元化するシステムを構築し、多品種少量生産への対応を効率的に行っている。受注データを入力すると、材料、在庫場所、加工方法、生産数量等が記載された加工指示書が加工機械ごとに発行され、従業員はそれを確認して作業し、作業後、材料使用量や問題点等を書き込み、事務所に提出する。

当該システムは、同社の梶朋史社長がパソコン用データベースソフトを使って、自ら作成したものである。パッケージソフトでは、業務に合わせた機能の変更や追加が難しく、修正にもコストが掛かった。在庫管理を徹底するため、加工が終わるごとに商品コードを付与し、仕掛品の状態まで把握するなど、梶社長が考案した工夫が随所に見られ、生産性の向上に大きく貢献している。

梶社長は、新しい技術も積極的に活用している。各受注の加工図面について、以前は紙に印刷したものを使っていたため、古い図面と顧客の要望で変更した新しい図面とを取り違え、不良品を出してしまうことがあった。

現在では、タブレット型端末と無線LAN の活用により、加工現場で社内のサーバから最新図面を参照する仕組みを整え、取り違えを防いでいる。「IT を活用するためには、経営者が自社に必要なITが何かを考え、それに合ったものを探す必要がある。今はインターネットで様々な情報が得られるし、やるべきこと、やりたいことが分かっているればシステムづくりも難しくない。システムは一度作れば、作業は楽になるし、手作業でのミスもなくなる。難しいという先入観に捉われて避けていると、IT の導入は進まない。FAXサーバを導入するなど、取り組みやすいところから、徐々に取り組んでいくことが大事ではないかと思う。」と梶社長は語る。

タブレット型端末の利用風景

